

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200242		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	松戸ナーシングヴィラそよ風		
所在地	千葉県松戸市常盤平5-24-2		
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日	平成31年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・2ユニットが並んでおり入居者様の行き来があり色々な方とコミュニケーションが図れる ・スタッフ全員ですべての入居者様をケアするようにしている(スタッフ同士も仲が良い) ・複合施設のため、デイサービスの催し物に参加できます ・3Fに有料老人ホームが併設されていて看護師が常駐しているので医療面において素早い対応が出来主治医との連携も上手く出来ている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新京成線「五香駅」西口から徒歩で5分ほど、商店街、スーパー、公園が近くにあり、買物や訪問等に便利なホームです。鉄筋コンクリート3階建ての2階を使用し、1階のディサービスと3階の有料老人ホームと連携して、各種行事、防災訓練、ボランティアの受け入れ、医療面など効率的に運営しています。運営法人の理念(会社・地域)の他、地域密着性を織り込んだホーム独自の理念の下、全職員が利用者の気持ちに寄り添い、チームワークを発揮して、家庭的で質の高い介護の実践に努めています。また、医療連携が取れており、信頼できる医師や看護師のもとで、今年も1名の看取りを行い、利用者・家族に安心感があります。職員や利用者のユニット間の交流もあり、長い廊下は利用者の歩行訓練に役立っています。</p>
--

1		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、朝礼で唱和し各スタッフルームの目の付くところに貼ってあり、皆が意識して実践出来るように促している	運営法人の理念の他、ホーム独自の理念「地域での暮らしの中で、ゆったりと居心地良く、ありのままに、喜びと自信そして安心を」を事務所・食堂に掲示し、朝礼やカンファレンス会議などで唱和し、日頃のケアの中で実践に心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩等で外に出かける機会を持ち近隣のスーパーや商店に買い物へ行ったり納涼祭や餅つき、避難訓練の時などに声をかけている	町内会の行事(クリーンデー、防災避難訓練、さくら祭りなど)に積極的に参加しています。施設合同の、納涼祭や餅つきには地域の住民や子供が多数参加する他、傾聴、本読み、音楽療法などのボランティアを受け入れ、地域交流も活発に行なっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭や餅つきの際に声をかけ参加して頂く。、毎年秋に開催している文化祭には入居者が作成した作品を飾り観て頂いている(掲示板)	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行政の担当者も参加し、運営推進会議を行っており、状況報告をしたり、反対に情報を頂いている	会議は、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、主治医、介護相談員、施設長、管理者などが参加し、年6回開催しています。また年1回は、市の担当者も参加します。医師が毎回参加するので、医療的な話も多く参加者の意見を参考に、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の方毎月来訪されている。市の担当の課とは相談できる体制を作って、その内容の記録を残している	運営推進会議には、地域包括支援センターや介護相談員の出席もあり、情報を交換し協力関係を築いています。市の関係課とは、日頃から連絡を密にしており、市の担当者も出席するグループホーム協議会にも管理者が参加し意見交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に1回内部研修で身体拘束についての話し合いをしており、身体拘束をしないケアを確認している	3か月に1回、身体拘束委員会を開催し、言葉の虐待はじめ禁止11項目などを周知徹底させています。職員は外部研修や内部研修にも参加し理解に努めています。ユニット間は鍵をかけていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉県の高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修と社内での研修を行っている	/	/

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて勉強している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記のとおりに出ている 契約時以外でも常に質問に対しては答えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回家族総会にて話し合う機会を設けている。入居者からは毎月訪問する介護相談員に話ができるようになっている	家族は、来訪時や年2回の家族総会、運営推進会議などで意見・要望を聴き運営に反映させています。利用者については、日頃の触れ合いの他、毎月来訪する介護相談員からも情報を得ています。また外部評価時の家族アンケートとも参考にしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションをとるようにして何でも言いやすい関係を作っている。毎月各ユニットでカンファをし、意見交換をしている。	管理者は、日頃の対応や月1回のユニット会議等で職員から意見・要望を聴き運営に反映させています。施設長も年1回個人面談を実施しています。複合施設合同の各委員会(感染症、接遇、アクティブ、事故対策)に各ユニットの職員も1名ずつ参加し、意見や提案をし運営に役立っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記の通り心がけている 年に2回の昇格時には候補者に対してアドバイスをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社のさまざまな研修や外部の勉強会に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市のグループホーム協議会に入っており、2カ月に1度交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に調査をして入居時にはプランを作成し提供するようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と面談をし、家族の不安に耳を傾け要望を聞き、どのようなサービスが提供できるのか説明し納得して頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の必要なサービスを見極め、家族と相談しながらサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事や、入居前にしていた事を、継続してできるように支援し、助け合っ て生活をしている実感をもって頂くようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、その都度相談をして、介護の方向性を共有できるようにし片方の立場に立たないように家族と共に支援する		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とのつながりは継続できるように面会の機会を多く持つよう進言し、外部とのつながりを維持する事は一部の入居者は出来ている	家族と利用者・ホームが一体となって利用者を支援するという姿勢から、家族とのかかわりは強く、家族と共に食事に出かけたり墓参りや法事の出席、外泊するなど、馴染みの関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者を探したり、ゲームをする時はスタッフがなるべく間に入り、会話がスムーズにできるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまで対応している為、死亡退去が多く、これまでの関係を継続していく事は難しいが恒例の餅つきのお誘いをし毎年何名かの家族が来てくれている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向の把握に努めてプランに反映させ、ゆっくりではあるが本人の意向に沿うように支援している	職員に気を使って気持ちを伝えない利用者や、発語の難しい人にはしぐさや表情から、気持ちを察するよう努めています。職員のアプローチにより「歩きたい」という思いを察してホームの廊下を歩いたり散歩を積極的にすることで自信がついた例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートに記入して頂く事により、以前の暮らしはどうであったのかを確認している。また、分からない場合は家族に聞くように努め以前と変わらない生活スタイルを維持するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化に気付くよう、ひとりひとり気を配り、記録をしスタッフ全員で把握できるようにする		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々変わりつづける利用者の状況に色々なアイデアを出し、プランの変更時には本人と家族の意見を聞きプランに反映させている	入居前には自宅に訪問するなどして、利用者の生活を確認しています。家族は情報シートに基本情報を入力し、医療や事業所などの関係者から得た情報をもとに暫定の計画を立てます。入居後約1か月の様子を見て本計画を立て、3か月～半年でモニタリングを行い見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を記入し、スタッフが全員目を通す事で情報を共有するとともにカンファレンスで確認をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に本人の状態を把握しプランを作成し、見直しや区分変更もその都度行っている		

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内のプランにとらわれずに近隣のスーパーや商店に買い物へ行ったり、美容院に行ったりして地域の資源を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心配事があれば、往診に家族は同席し直接主治医から状況の説明をうけられるように手配をする	利用者は入居時にかかりつけ医を選択しています。ほぼ全員が提携医の診療を受けており、医師が直接家族に連絡することもあります。また併設施設の看護師が毎日利用者の様子を見て必要時は医師につなげ、連携をとって健康管理しています。このことが、利用者や家族、職員の医師や看護師に対する厚い信頼につながっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日一回、看護師ラウンド時にその日のバイタルと、入居者の状況を報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応を病院の相談員等と行い、情報交換がスムーズに行くように、慣れたスタッフが行いその内容を申し送るようになっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の責任者が、主治医と相談し、個別に家族対応していくことで、徐々に家族の気持ちに整理がつけるように支援している。終末期に関する申し合わせ事項というものを用意している	入居時に本人・家族に「看取りについての事前確認書」と「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を示して同意を得ています。重度化した場合には医師を交えて家族の意向を確認し、今後の事を話し合っています。今年1名の看取りを行っています。	医療連携がよく取れているため職員は安心してターミナルケアに臨んでいます。利用者の高齢化に伴い看取りを望む声が多くなる事が予想されます。振り返りや記録を含めて更にしっかりとしたしきみを整えることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員もいるため、全てのスタッフは対応できないが、内部研修などで実践力を身につけるように努め流れを文章に明示している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練と避難訓練を行っている。消防訓練の参加により地域の消防署との関係を作っている	併設施設合同で、年2回消防署立会いによる避難誘導訓練と自主訓練を实地しています。スプリンクラー、消火器等必要な防火設備は整い緊急対応表、連絡網も掲示されています。町内会の防災訓練にも職員が参加しています。備蓄は5日分準備しています。	災害に強いホームですが、車いすの利用者が8名おり、地域の協力が必要です。消防署、地域住民との連携による、災害訓練の実施が望まれます。また備蓄についても、内容・数量の見直しを続けることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけには注意し、他利用者に悪い印象をもたれないように配慮している。社内研修でも接遇(言葉遣い)として行っている	個人ファイルなどの個人情報、事務所の鍵のかかる棚に保管しています。接遇についての内部研修を行い、利用者の尊厳を尊重する支援に努めています。職員は忙しい時でも利用者へは余裕をもって声かけする事を心がけており、気づいたことはお互いに注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を最優先で尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は、ある程度決まっているが、ご本人のペースに合わせてなるべく自由に過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によるがご自分のこだわりで服を選んだり、散髪や髪染めもされている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にもよるが食器洗いや食器拭きや、簡単な調理は利用者をお願いしている。自らやって下さる方もいる。	利用者は、食材を切ったり盛り付けや配下膳など、できることを行っています。食事は職員とともに談笑しながら食べます。利用者のリクエストの多い麺類や寿司を食べる機会もあります。年に数回デザートバイキングの日を設け、利用者には喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を数値化し摂取量が少ない場合は、その日のスタッフ同士で共有して優先して摂取できるように工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前は必ず行っている。嚥下困難な利用者は、食後に口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便座での排泄が難しくなっても、なるべく一日に一回は便座に座って頂くようにしている。ミーティングでも安易にオムツを使用するのではなく工夫するよう指示は出ている	職員は利用者が立位が取れるように働きかけ、立つ事ができればポータブルトイレやトイレで排泄ができるよう介助しています。自立した排泄ができるよう個々の状態に合わせてトイレ誘導や声かけをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトや寒天やオリゴ糖を使用し、薬に頼らないように工夫している トイレでは腹圧をかけてみる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい方を優先し、好きでない方には声かけや、タイミングなどの工夫はしている。順番通りに入れるのではなくほんにんの希望や状態を見て臨機応変に行っている	週に2回のペースで入浴しています。拒否のある人には「風呂」ということばを使わなかったり「無料で入れますよ」など声かけを工夫しています。入浴すれば「気持ちいいよ」と喜んでいます。また洗身の時に足湯を行い、体が冷えないよう配慮しています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者にあわせて、安眠できるような環境を整える		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は申し送りノートに記入しスタッフ全員が理解できるようにしている。朝・昼・夕の薬を入れるケースに、個々の薬の名前や個数が記入してありダブルチェックで確認しながら与薬している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅に居た時のように季節ごとにイベントを設けて、食事などを工夫したりたまに外食も行っている。趣味を持っている方には自由にやっていたいしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの状況にもよるが、できる限り外に出たいという気持ちが維持できるように、四季を感じるよう外出支援を行っている。	個々の希望に沿っての外出はなかなかできませんが、家族の協力で散歩や外食に出かけています。また年間では車で桜見物や紅葉狩りに行くなど季節の花を見て楽しんでいます。	利用者一人ひとりにとって外出がどのようなものを検討し、状態や意向に沿って外出ができるよう、介護計画の中に位置づけるなど、具体的な取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価(ひまわり)	外部評価 (ひまわり、コスモス、全体)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しっかりと管理できる場合は、家族が紛失した場合のリスクを納得して頂いたうえで所持しているが、それ以外の方は、小銭程度しか所持していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より事前に許可を貰ってる人とは交流を了承している場合のみ電話連絡を行っている。携帯電話を所持している方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故の事も考え、あまり物は置かず、シンプルで安心出来る空間を作っている。季節感(節句・鯉のぼり・七夕・クリスマス・神社)を出すような飾り付けを行うようにしている	広いリビング兼食堂は、ゆったりしており、ストックなどの生花やお雛様も飾られ季節を感じられます。また厨房からの音や匂いで生活感があります。2ユニットが繋がっているので、利用者は長い廊下を歩いたり、ソファで休憩したりと思いいきに過ごしています。管理者は、加湿器を置き、室温や湿度などに気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ユニット自由に行き来できるように、夜間以外施錠していない。入居者同士で運動がてら他ユニットまで歩かれたり、スタッフが付き添い遊びに行くなどして交流をもつようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に写真等の馴染みの物を持ってきていただけるように説明して、居室に置いている	居室は、エアコン、クローゼット、ベットなどが備え付けで、綺麗に整理・整頓されています。利用者は、テレビ、椅子、家族の写真など馴染みの物を持ち込んだり、新聞を購読するなど、それぞれに居心地良く過ごしています。居室担当者は、掃除や衣替えの他、誕生日や行事の写真を整理して部屋に置き家族に提供しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からなくなってしまう方にはドアの見やすい所に名前を付けたリトイレの案内も大きな文字で表示し工夫をしている		

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	1291200242	
法人名	株式会社ユニマットそよ風	
事業所名	松戸ナーシングヴィラそよ風	
所在地	千葉県松戸市常盤平5-24-2	
自己評価作成日	平成31年1月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (コスモス)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、各スタッフルームの目の付くところに貼ってあり、皆が意識して実践出来るように、促している		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーや商店に買い物へ行ったり納涼祭や避難訓練の時などに声をかけている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや餅つきの時に声をかけをしている		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方及び行政の担当者の参加を得て2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、状況報告をしたり、逆に情報を頂いている		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の方毎月来訪されており入居者の気持ちを伝えてくれている。市の担当の課とは相談できる体制を作るようにしている		
6		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県身体拘束廃止の研修に参加しており、また内部研修で身体拘束についての話し合いを行い、身体拘束をしないケアを目指している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員ではないが千葉県の高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修を受けている。内部研修で勉強会を行っている		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて勉強している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	左記のとおりに出来ている		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回家族総会にて話し合う機会を設けている。入居者からは毎月くる介護相談員に話が出来るようになっている		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションをとるようにして何でも言いやすい関係を作っている。なるべく毎月各ユニットでカンファし、意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記の通り心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社のさまざまな研修や外部の勉強会に時間を作って参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市のグループホーム協議会に入っており、2カ月に1回交流を深めている。他のGHの運営推進会議に出席し交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の思いや願いをお聞きして知った上で、コミュニケーションを深め信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定の時から、情報シートをもとに、家族と良く話し、要望等に応えるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と話す機会を設け、要望を入れるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に寄り添い、人生の大先輩として尊敬して対応するよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、必ず電話をし、報告や相談をしている。面会時も必ず声をかけ、コミュニケーションを図っている		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へお連れ出来ないことが多いが、会話の中で思い出して楽しんでいただいている。お友達が来訪することもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を大切にしながら、孤立しないよう、職員が関わり、支援している。他ユニットの利用者とも交流できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退去が主のため、家族との関係は断ち切られることが多いが餅つきに退去された家族が参加して下さる方もいる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や日頃の様子から希望や意向の把握に努めているが、意思の疎通が困難な時、また十分でない場合は、ご家族にも相談している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人と家族とじっくり話し、なるべくその方に添った生活をして頂いている。馴染みの物を居室に置いたり環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな事でも今までと変化のあった事は、毎日の生活記録に記入し、その日に休んだ職員にも分かるようにしている		
26		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファにて、個人個人の課題やケアの仕方について話し合い、医療関係は主治医や看護師に相談をし現状に合ったケアを心がけている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の勤務者が生活経過記録に記入し、申し送りほーとにも記入し他職員も必ず目を通すようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスで催し物がある時はグループホームも呼んで頂けたり、館内を散歩すれば他事業所の方が話し掛けて下さる。		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ買い物に行ったり、お花見や紅葉狩り等に出かける事がある		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があり、入居者全員に主治医が居て最低月に2回は往診をしてくれるので安心できる		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、看護師が来てくれ、その際に報告・相談も出来る。緊急の場合も連絡をすれば、すぐに来て貰える		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前にサマリーを渡し情報を送り、入院中も見舞いに行った時などに病院関係者と話をし情報交換をしている		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にターミナルの話はしてあり、ターミナルが来た時は、施設責任者と計画作成者と主治医も交え、家族と話す機会を設け、共有していくようにしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、内部研修で行っている		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練と避難訓練を行っている。消防訓練の参加により地域の消防署との関係を作っている		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合わせた対応をしている 個人情報保護の社内研修も行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を傾聴している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間も就寝時間も決まっておらず個々のペースで過ごされている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みのものを着ていただいている。ご自分で選べない方や間違えた着方をされた場合は、さりげなく支援している。髪染めをされるかたもい		
40		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳等その方に出来る事をしていただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が困難な方にはゼリーを差し上げたり、果物でジュースを作ったりして工夫している。食べられない方には好物だけでも召し上がっていただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じて、声掛けや介助を行っている 夕食後の口腔ケアと義歯の掃除を行っている		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要とされる方が増えてきたが、ご本人の気持ちに添って介助に入り、本人の状態によるがトイレでの排泄を心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然に出るよう飲料にオリゴ糖を使用したり乳酸菌飲料を飲んで頂いている。排便困難な時は医療との連携を図っている		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜の入浴は難しいが、なるべくご本人の希望に沿うようにする、また入浴を好まない方には時間を置いたり声のかけ方を工夫している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠不足の方には日中に声かけし臥床して頂いている。個々の訴えにより冷暖房や湯たんぽを使用している。消灯時間は無く好きな時間に入眠して頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は申し送りノートに記入しスタッフ全員が理解できるようにしている。朝・昼・夕の薬を入れるケースに、個々の薬の名前や個数が記入してあり確認しながら与薬している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のお好きな事をしていただける様、散歩や歌、軽い運動等行っている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩等外出するように努めている、またご家族と一緒に外出も勧めている		

自己	外部	項目	自己評価（コスモス）	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば家族の理解も得て、所持して頂いているが管理能力が難しい方はトラブルを避けるために所持は避けるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の要求がある方には家族の協力により定期的に電話をしている		
52		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事故の事も考え、障害物となるような物は置かず、シンプルで安心出来る空間を作っている。 季節感を出すような飾り付けを行うようにしている		
53		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には静かに過ごせる空間もある		
54		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族にお願いして、使用されていた家具等を持参していただいている。 食器類も家で使用されていたものを持参している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	改装した建物の為、それがなされていないところもあるが、物の配置等を工夫して安全な環境を作っている		